

仙台市市民文化事業団 事業運営に関する基本指針

令和4年[2022年]3月

公益財団法人仙台市市民文化事業団

Sendai Cultural Foundation

1 改訂の趣旨

仙台市では、令和3年3月に策定した「仙台市基本計画」の中で、自分らしく、充実した暮らしを実現するために、文化芸術や歴史などに親しめる多彩な学びの機会があふれる環境やライフスタイルに合わせた活躍の場をつくることをその目標の一つに掲げました。

当財団は、平成29年1月に「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」を策定し、これまで、多様な分野の連携を深めて一体的に取り組みながら、広く仙台の市民文化と文化に関わる市民力の向上に努めてきました。今後とも、仙台市の掲げる目標の実現に向け、仙台市のパートナーとしてその一翼を担っていくことが期待されています。

今回、基本指針の取り組み期間が終了しますが、今後の取り組みにおいても、その方向性は大きく変わるものではないと考えています。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行拡大による行動制限といった新たな社会環境の変化が生じたことから、そうした視点も新たに加え、基本指針の内容の一部を改訂し、将来の予測が難しい時代にあっても、引き続き、仙台の文化芸術の振興、郷土の歴史の継承及び生涯学習の支援に資する事業を柔軟かつ効果的に推進できるよう、新たな基本指針に基づき取り組んでいきます。

2 位置づけ

この指針は、当財団の定款を基本に、東日本大震災からの復興に文化が果たした役割を踏まえ、地域の持続可能な発展と市民の心の豊かさを支える基盤としての文化を振興するため、財団が担うべき役割とめざす方向性、職員の取り組みについて示すものです。仙台市の基本計画をはじめとする市の諸計画を踏まえ、私たちが指定管理等により市の施設を管理運営し、あるいは補助金等を活用しながら自主事業を企画・展開する際の基本となります。

この指針に基づき、目標を定めて事業計画を策定し、毎年度の予算策定や執行管理等を通じて不断の改善を図っていきますが、社会情勢の変化や国・仙台市等の政策動向の変化に対応するため、概ね5年ごとに見直しを行うものとします。



せんくら 2021
27 番公演「歌とピアノで紡ぐ世界旅行へ、アンディアーモ！」



せんだいダンスプロジェクト

3 基本方針

文化は市民の活力や創造力の源であり、併せて人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供するとともに、地域を活性化し、賑わいと交流をもたらします。多様な学びの機会の充実や文化の振興により、まちの魅力や活力を増進させていくことが、未来に向けて地域社会を支えるため、ますます重要になっています。

私たちは、地域に根差し、多岐にわたる市民文化の振興と文化に関わる市民力の向上をめざして、市民とともにその実現に向けた取り組みを進めるため、次の基本方針に基づき事業の展開を図ります。

新型コロナウイルス感染症の拡大により生じたさまざまな制限等の経験を踏まえ、今後も起こりうる危機に際して、デジタル技術を積極的に取り入れるなど社会の変化への対応力を高め、生活様式の変化等も十分考慮しながら、市民の安全と安心を最優先に事業を進めていきます。

■ 基本方針 1 資料の収集と活用

歴史や伝統、多様な文化芸術に関する資料収集・調査研究とその成果の活用により、市民の暮らしに息づく文化の保存・伝承および総合的な文化の振興を図り、市民の主体的な学びの支援とまちの魅力向上に活かします。

- [1] 資料の収集・保管及び調査研究
- [2] 調査成果に係る情報発信と
成果を活用した事業の展開



縄文あにまる～つくる・つかう～
(地底の森ミュージアム)



特別展「仙台の災害」
(歴史民俗資料館)

■ 基本方針 2 市民の文化活動への支援

市民が行う自主的な学びと安全で安心な活動の場を提供し、さまざまな文化活動の支援や情報発信に努めることで、多彩な学びの機会にあふれる環境やライフステージに関わらず誰もが心豊かな市民生活を送り、地域が活性化することをめざします。

- [1] 文化施設の管理運営・魅力向上
- [2] 市民活動や学びの場の提供と支援・助成・協力
- [3] 鑑賞機会の提供



イズミノオト
(泉文化創造センター)



せんだいメディアテーク
テクノロジー 2001-2021

基本方針3 さまざまな人材の育成

文化活動に関わる人材のすそ野を広げ、子どもたちをはじめとする次世代や新たな担い手を育てるとともに、地域の歴史や伝統、民俗芸能の継承を支援し、地域への誇りや愛着を深め、鑑賞者の育成にも努めるなど、文化に関わる市民力の向上をめざします。

- [1] 講座・ワークショップの開催
- [2] ボランティア、サポーターの活動機会の充実



舞台スタッフ・ラボ



第7回仙台国際音楽コンクールボランティアによる会場運営サポート

基本方針4 「楽都」「劇都」の成長促進

たくさんの市民が集う劇場等を文化の継承・創造・発信の場として活用することで、「楽都」や「劇都」として、市民が参加し、育んできた文化をさらに成長させ、仙台の魅力として国内外に発信していきます。

- [1] 劇場・音楽堂の活性化
- [2] 音楽の振興と創造・発信型事業の推進
- [3] 舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進



第7回仙台国際音楽コンクール
ピアノ部門ガラコンサート



仙台舞台芸術フォーラム 2011→2021
東北『方丈の海』

基本方針5 地域文化資源の活用

多様な分野や担い手との連携や交流を進め、地域や文化資源の新たな魅力発掘に努めるとともに、他者への理解を促進し、地域で育まれてきた文化の土壌を発展させることで、文化の力を地域の活性化や課題解決に活かします。

- [1] 地域共生社会を見据えた事業
- [2] 震災・復興に文化を通して向き合う事業
- [3] 地域・社会の課題を見据えた文化事業
- [4] 新たな地域文化創造にむけた事業



『新浜を歩く』ツアー
(せんだい3.11メモリアル交流館)



50歳から輝くステージ『炎:Honō』/
仙台市文化プログラム
(共催:PLAY ART!せんだい・仙台市)

4 事業の推進

基本方針に基づいて毎年度の事業計画を策定し、状況の変化に柔軟に対応しながら事業の推進を図ります。終了後には振り返りを行い、これを次年度以降の事業展開に活かしていきます。

5 法人の基盤強化と職員の能力開発

将来にわたって地域から必要とされる組織であるための自己変革に取り組みながら、職員一人ひとりが必要な知識や技能を習得し、持てる力を最大限発揮して働くことができるよう、環境の整備に努めます。

① 運営基盤の安定化

各種補助金や助成金の積極的な活用を図り、併せて、企業協賛や公益財団法人のメリットを活かした多様な資金調達手段を検討するとともに、新たな顧客の獲得や継続的な参加につなげる取り組みを推進します。

② 組織の強化

地域や市民、文化芸術などの各種団体をはじめ、大学、企業、他都市や他機関とも交流や連携を促進しながら、幅広い事業展開を図ります。また、組織内の情報共有を徹底し、効率化、省力化を進めるとともに、チャレンジする組織風土への変革を図ります。

③ 安全・安心の確保

想定されるリスクをできる限り予防し、発生後の危機に対応するため、安全・安心な体制の構築を図ります。また、施設や設備の経年劣化等の状況を把握し、こまめな修繕に努めるとともに、利用者の目線による、わかりやすく利用しやすい施設をめざします。



避難訓練コンサート（泉文化創造センター）

④ 情報発信の強化

アクセシビリティの向上や多言語化について検討しながら、見やすく、使いやすいホームページの構築をめざします。また、SNS など多様な手段を活用した広報に努め、国際的な発信力も含めた情報発信力の強化を図ります。



仙台国際音楽コンクール海外向け英語サイト

⑤ 職員の専門性と能力の開発

専門能力の開発や意欲の増進につながる研修機会の充実を図るとともに、幅広い分野を担う財団の強みを活かして、専門性を有し、発揮できる人材の確保・育成に努めます。また、組織の持続的な安定に必要な経験を積みながら、知識や技能を向上させることができるよう、中期的な見通しに基づいた人員配置を行います。

⑥ 市民協働の推進

学びや文化を通じ、それぞれの知見や強みを活かし、さまざまな場面で市民協働の推進を図るとともに、各種ボランティア、サポーターの活動機会の拡大と今後の事業展開を見据えたネットワークづくりに努めます。



日立システムズホール仙台パフォーマンスフェスティバル

6 取り組み期間

令和4（2022）年度から令和8（2026）年度までの5か年とします。